

日本社会福祉学会 関東部会

NEWS LETTER vol. 20

Kanto branch, Japanese Society for the Study of Social Welfare

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 明治学院大学社会学部社会福祉学科 久保美紀研究室 気付
日本社会福祉学会関東地域部会事務局 Eメール:kantobukaijimukyoku@gmail.com
2018年1月10日 発行

新年を迎えて ―研究大会へのいざない―

久保 美紀（関東部会担当理事：明治学院大学）

新年を迎えるにあたり、本年が平和で希望にあふれる年になることをお祈りいたします。それとともに、会員のみなさまにとって、社会福祉実践・研究の飛躍の年になりますことを心より願っております。

日本社会福祉学会関東地域ブロック（略称：関東部会）の担当理事をお引き受けして、2年目が過ぎようとしております。その間、会員のみなさまのご期待にどの程度添うことができたか、心もとない限りですが、運営委員のみなさまをはじめ、会員のみなさまのお力添えを得ましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。

今年度の研究大会は、「働くことへの支援とその担い手の多様性を問う」を大会テーマとして、2018年3月4日（日）に明治学院大学白金キャンパスで開催されます。詳細は、本ニュースレターでご案内しておりますが、いくつか新たな試みがあります。まず、オープニングプログラムとして、ワークショップ「ここが知りたい！つながりたい！研究活動」を実施することになりました。研究活動を行うなかで、疑問に思うことや、困難に感じることなど、志を同じくする人どうしが、少人数で語り合うとともに、新たなネットワークをつくる場になれば幸いです。二つ目は、他の地域ブロックとの研究交流です。各地域ブロックの役割のなかに、若手研究者・実践者の研究活動の活性化と研究交流の促進があります。今年度、北海道地域ブロックより、若手研究者の研究交流のお申し出をいただき、第2回運営委員会（2017年9月22日開催）において検討の結果、本研究大会へご参加いただくことはもちろんのこと、自由研究報告にエントリーしていただくことなどを通して、研究交流を図ることになりました。

研究大会は関東部会の活動の重要な柱のひとつです。関東部会の会員数は約1800人の大所帯で、会員どうしの直接的交流がしづらいところがあります。年度末で、なにかとご多用かと存じますが、より多くの方々にご参加いただき、研究大会が対面的な関係による相互研鑽の場となり、社会福祉研究全体の発展に寄与することを願っております。なお、より詳細なプログラムは、随時、関東部会ホームページにてご案内いたします。

会員のみなさまに積極的に参画していただき、会員相互の活発な議論や情報交換を行う場として、関東部会をより魅力あるものにしていきたいと思っております。引き続き、ご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2016年度の研究大会を終えて

2016年度日本社会福祉学会関東部会研究大会（大会実行委員長：久保美紀（明治学院大学））は、「当事者固有の文化にもとづいた社会福祉の構築」を大会テーマに、2017年3月11日（土）、明治学院大学白金キャンパスにおいて開催されました。当日は、約120名のご参加をいただき、盛会のうち終えることができました。

午前の自由研究部門では23件（研究報告13件、萌芽的研究報告9件、実践報告1件）の報告があり、6会場に分かれて行われました。また、残念でしたが研究大会奨励賞の受賞者はいませんでした。今後の積極的なご応募をお待ちしています。

午後は、社会福祉学のみならず「文化」に関わっておられる方々からも発題いただき、「当事者固有の文化」に近接していく方法論について検討しました。伊藤亜紗氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院）に「目の見えない人は世界をどう見ているのかー身体論から考える障害ー」と題し基調講演をいただきました。

つづいてシンポジウムでは、本間照雄氏（東北学院大学）より「震災によって失われた文化とその再構築ー宮城県南三陸町被災者試練の事例からー」、ヴィラーク ヴィクトル氏（日本社会事業大学）より「LGBTQ等のコミュニティ固有の文化とソーシャルワークー性（sexuality）の多様性（diversity）とそれに対応すべき文化的な力量（cultural competence）の基礎枠組みを中心にー」とそれぞれ発題されました。さらに、コメンテーター月田みづえ氏（昭和女子大学）、コーディネーター田嶋英行氏（文京学院大学）を交え、フロアからの質疑を受けながら、熱くディスカッションが進められました。

最後になりますが、本大会の開催につきまして、大勢の方々のご協力とご参加をいただき誠にありがとうございました。（※ご所属は研究大会当時のものです。）

（関東部会事務局）

2017年度研究大会のお知らせ

2017年度 関東地域ブロック 研究大会

大会テーマ：
働くことへの支援とその担い手の多様性を問う

■日 時：2018年3月4日（日）

■会 場：明治学院大学白金キャンパス

〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

- ・品川駅から【JR山手線・京浜東北線・東海道線・横須賀線・東海道新幹線 / 京浜急行線】
高輪口より都営バス「目黒駅前」行き、「明治学院前」下車
※徒歩約17分
- ・目黒駅から【JR山手線 / 東急目黒線 / 東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線】
東口より都営バス「大井競馬場前」行き、「明治学院前」下車
※徒歩約20分
- ・白金台駅から【東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線】
2番出口より徒歩約7分
- ・白金高輪駅から【東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線】
1番出口より徒歩約7分
- ・高輪台駅から【都営地下鉄浅草線】
A2番出口より徒歩約7分

※ <http://www.meijigakuin.ac.jp/access/> 参照

■参加費：無料（会員・非会員いずれも無料です）

■実行委員長：久保美紀（明治学院大学）

申し込み：以下のサイトから申し込みができます

<http://www.jsssw-kanto.jp/>

関東地域ブロックは、とくに大学院生など社会福祉学研究に取り組み始めた方や、さらなる報告機会を求めている研究者や実践家の研究活動の活性化と研究交流の促進に焦点を当てた研究活動を行っています。

その主たる活動として研究大会があり、今年度は明治学院大学白金キャンパスにおいて開催します。午前には会員諸氏による自由研究報告発表、午後は「働くことへの支援とその担い手の多様性を問う」をテーマとして、基調報告とシンポジウムを行います。

近年、社会福祉の分野では、障害者、高齢者、就業機会に恵まれない若者、一人親など、いわゆる就労困難者に対して働くことへの支援が重要な課題として登場しています。ただし、働くことへの支援といっても、一様ではありません。当事者の働く意欲と力はさまざまであり、それぞれに合った働く機会や場を支援する多様なサービスが必要です。現にその支援サービスと支援組織はすでに多様化してきています。本大会では、「働くことへの支援」にかかわる研究・実践の立場から、その実態とあり方を明らかにし、課題と展望について考えていきます。

■大会プログラム（予定）

時 間	内 容
9:00	受付開始
9:30-10:30	オープニング・ワークショップ
10:45-12:15	自由研究報告
12:25-13:25	昼食・休憩（運営委員会）
13:25-13:50	記念講演（2017年度日本社会福祉学会奨励賞受賞者） （論文部門）「子ども虐待に伴う不本意な一時保護を経験した保護者の『折り合い』のプロセスと構造ー子ども虐待ソーシャルワークにおける『協働』関係の構築ー」 鈴木 浩之 氏（神奈川県中央児童相談所 虐待対策支援課）
14:00-14:50	基調講演 「組織論の観点から社会サービス供給組織と働くことへの支援を考える」 米澤 旦 氏（明治学院大学）
15:00-17:00	大会シンポジウム 「働くことへの支援とその担い手の多様性を問う」 ・シンポジスト 村田 文世 氏（日本社会事業大学） 「社会福祉法人の公益的活動と「働くことへの支援」」（仮） 平田 智子 氏（ユニバーサル就労ネットワークちば） 「『働きたい』を応援します。～ユニバーサル就労とは」（仮） ・コメンテーター 金井 郁 氏（埼玉大学） ・コーディネーター 金 成垣 氏（明治学院大学）
17:00-17:30	総会・関東部会研究大会奨励賞授与式
17:30	閉会
17:45-19:15	懇親会（参加申込者、会費 2,000 円）

オープニング・ワークショップ「ここが知りたい！つながりたい！研究活動」のご案内

1. 趣旨

みなさんは、日頃の研究活動を行っているなかで、「ここは難しいなあ、もっと詳しく知りたいなあ」と感じている部分はありませんか？

今回は、その点についてテーマ毎のグループに分かれて、学会参加者同士で情報交換を行い、今後の学会活動に反映させる機会にしていきたいと考えています。そこには、学会で活動しているベテラン研究者もアドバイザーとして参加します。参加者同士での情報交換にとどまらず、ネットワークを作ることもねらいです。

研究活動に携わる人どうしで、語り合ってみませんか。なお、集約された意見は学会ニュース等で皆様にお伝えするとともに、今後の学会における企画にも反映していきます。

(担当：日本社会福祉学会若手・女性研究者に対する支援検討委員長、立正大学 保正友子)

2. タイムスケジュール

9:30～9:40 趣旨説明・話題提供

9:40～10:30 グループでの情報交換・意見集約

司会者・書記決め

情報交換

- ・簡単な自己紹介
- ・研究活動を行って難しいと感じる点
- ・もっと詳しく知りたい点
- ・それらの点について、これまで自分はどのように対応してきたのか

3. グループテーマ

以下のグループを考えていますので、参加申込書に第2希望までのグループ番号をお書きください。なお、人数の多少によりグループの分割または統合を行うことがあります。

グループテーマ	アドバイザー
①質的研究方法 (グラウンデッド・セオリーアプローチ、実践研究)	淑徳大学教授 稲垣美加子
②質的研究方法 (ナラティブアプローチ、テキストマイニング)	駒澤大学教授 荒井浩道
③量的研究方法	ルーテル学院大学教授 山口麻衣
④プログラム開発と評価研究	日本社会事業大学教授 大島巖
⑤国際研究	首都大学東京准教授 室田信一
⑥歴史研究	東洋大学教授 金子光一
⑦政策研究	首都大学東京教授 岡部卓
⑧現場との共同研究	日本社会事業大学准教授 賛川信幸

運営委員に就任して

稲垣 美加子（淑徳大学）

今年度より運営委員の端に加えていただきました。ニュースレターの編集を担当させていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

私は1980年代に大学生を送り、一旦社会に出て1990年代大学院に学びその後研究者の道を歩きはじめました。1980年代はまだ、高度経済成長からいわゆる“バブル”へと世相は明るく、大学近くのレストランのランチで背伸びしてフレンチを食べてみたり、ボランティアの後、皆で洒落たカフェでお茶をしたりと、ある意味おらかに学生時代を送りました。むろん当時から実習先やボランティア先で出会う利用児・者の抱える課題の深刻さや社会の抑圧に苦しむ様子に、そうしたのんびりとした時間だけを享受しているだけで学生時代を終わってはいけないことも自覚しておりました。

岡村理論を議論し、パールマンの背景をひも解き、徹夜の議論もしたものでした。しかし、漠然と先輩たちや自分たちの努力で、社会は一人ひとりの市民の想いや行動によって、今（当時）以上に全ての人にとって安全で安心な社会になっていくのだろうと楽観的な未来像を描いておりました。

30年余りの月日を経た今日、「新しい貧困」「災害」「孤立無援」。あのおおらかな学生時代に想像もしていなかった現実社会が目の前に広がります。その中で少子化の影響でもあるのでしょうか。社会福祉学を専攻する、そしてソーシャルワーカーになろうとする若者は減少傾向にあり、社会福祉教育、ソーシャルワーカーの人材育成の機会は、その維持に危機感さえ覚える状況です。

社会が生み出す課題や問題は多様化・深刻化し、それを改善・解決しようとする社会福祉やソーシャルワーカーも、良くも悪くも必要にかられ、変容しつつあるようにも見受けられます。どこか政策主導の社会福祉の変遷が続くなかであっても、社会福祉実践の中には、ソーシャルワーカーたちの確かな実践知が積み上げられているようにも見受けられます。適うならば社会福祉が希求する「利用者主体」が真に実現し、これに応えるソーシャルワーカーがソーシャルワークを新たな理論体系へと洗練できることを願いつつ、微力ですが、その一助となる働きができましたら幸いです。

与えていただいた役割の中で皆様に学びながら、私自身も研鑽を心掛けていきたいと思っております。

関東部会ホームページ

荒井 浩道（広報委員：駒澤大学）

関東部会ホームページ (<http://www.jsssw-kanto.jp/>) では、メインコンテンツである機関紙『社会福祉学評論』（電子ジャーナル）をはじめ、研究大会、奨励賞、ニュースレター、運営委員会、公開講座・講演会、博士論文公開審査、最終講義などの情報公開を行っています（図1）。『社会福祉学評論』に掲載された論文は、フルテキストで一般公開（無料）しています（図2）。

「1日あたりの訪問者数」は、ホームページが開設された当初は20名前後でしたが、コンテンツが充実してきた2011年頃から徐々に増加し、最近では150名から200名程度で推移しています（図3）。人気コンテンツは、“機関紙『社会福祉学評論』（電子ジャーナル）”と“研究大会”です。

今後は、メールマガジン、Twitter、Facebookなどを活用することで、より活発な広報活動を展開していきたいと考えています。

なお、広報委員会ではホームページに掲載する公開講座・講演会、博士論文公開審査、最終講義の情報を随時募集しています。これらの情報をお持ちの方は、ご一報いただければ幸いです。

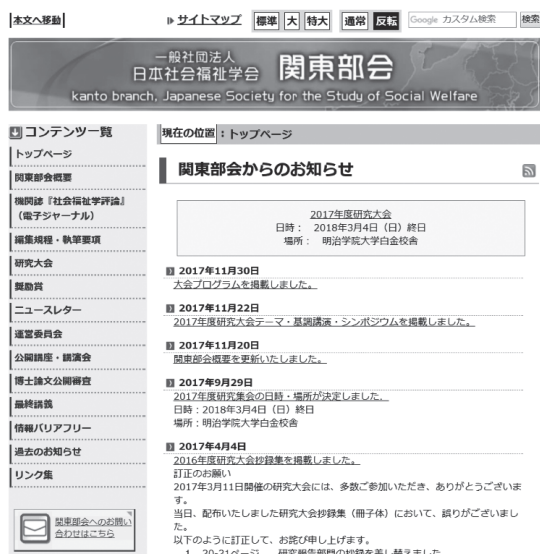


図1 関東支部 HP トップページ

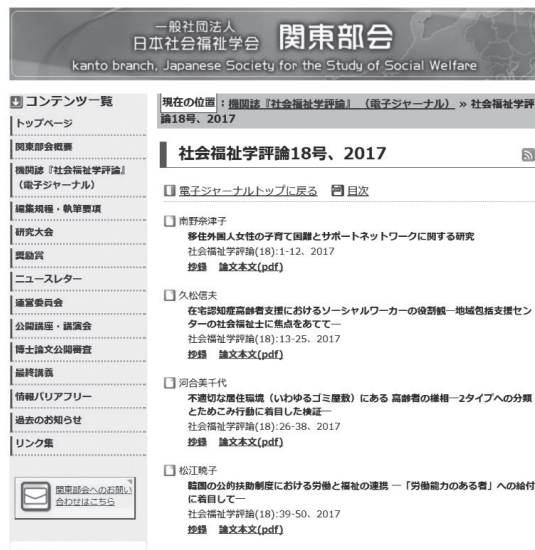


図2 機関誌『社会福祉学評論』

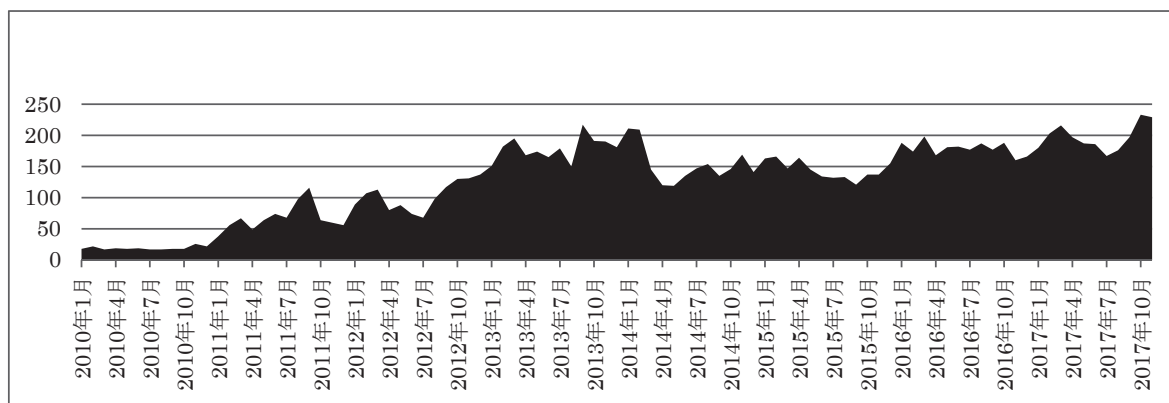


図3 1日あたりの訪問者数

『社会福祉学評論』について

久保 美紀 (明治学院大学)

関東支部の機関誌である『社会福祉学評論』は、2017年発行分で第18号となります。年4回(3月、6月、9月、12月の月末)の投稿締切を設定し、教育的査読のもと、掲載可となれば電子ジャーナル上で随時公開しています。とりわけ、若手研究者・実践者の研究成果の発表の場として、大きな役割を果たしています。編集委員をはじめ、運営委員のみなさま、そして、査読委員のみなさまには、お忙しいなか、ご尽力いただき、感謝申し上げます。

近年、投稿数は増加傾向にあり、それは会員のみなさまの研究活動が活発であることの証しであろうと思います。引き続き、会員のみなさまの積極的な投稿をお待ちしています。査読過程、編集規程等の見直しを継続して行い、機関誌の質の向上に努めたいと思っています。今後とも、ご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。